

平成 25 年度高度水利機能確保基盤整備事業地域（有田地区）

埋蔵文化財発掘調査報告

坂本里前遺跡

砂谷遺跡（第 3 次）

広垣外遺跡

湯田西浦遺跡

2015（平成 27）年 2 月

三重県埋蔵文化財センター

例 言

- 1 本書は、平成 25 年度に実施された伊勢農林水産部農業基盤整備課管内における高度水利機能確保基盤整備事業（有田地区）に伴い、記録保存を実施した埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
 - 2 発掘調査の経費は、その一部を国庫補助金を得て三重県教育委員会が負担し、他は三重県農林水産部から経費の執行委任を受けた。
 - 3 調査にかかる体制は下記のとおりである。発掘調査は平成 25 年度に実施した。報告書作成は平成 26 年度に行った。

調査主体 三重県教育委員会
調査担当 三重県埋蔵文化財センター

平成 25 年度（現地調査）調査研究 1 課
- 広垣外遺跡 課長 上村安生
調査期間 平成 25 年 11 月 11 日～平成 25 年 11 月 13 日
調査面積 80㎡
- 坂本里前遺跡 課長 上村安生 主査 谷口文隆
調査期間 平成 25 年 12 月 9 日～平成 25 年 12 月 17 日
調査面積 280㎡
- 砂谷遺跡 課長 上村安生 技師 櫻井拓馬
調査期間 平成 25 年 1 月 14 日～平成 26 年 1 月 28 日
調査面積 200㎡
- 湯田西浦遺跡 主査 谷口文隆 主査 伊藤 亘
調査期間 平成 26 年 2 月 20 日～平成 26 年 2 月 27 日
調査面積 96㎡
- 4 当報告書の作成業務は、三重県埋蔵文化財センター調査研究 1 課が行い、本書の執筆・編集は伊藤 亘が行った。
 - 5 当発掘調査の記録及び出土遺物は、三重県埋蔵文化センターで保管している。
 - 6 土層及び遺物の色調は、日本色研事業株式会社発行の『新版標準土色帖（21 版）』による。
 - 7 本書では、以下のように遺構の略記号表記をしている。
S K：土坑

目 次

I 前 言	1
II 位置と環境	2
III 坂本里前遺跡	5
IV 砂谷遺跡（第3次）	10
V 広垣外遺跡	11
VI 湯田西浦遺跡	13
VII 結語	17

挿図目次

第1図 遺跡位置図	3
第2図 調査区地形図	4
第3図 坂本里前遺跡出土遺物実測図①	6
第4図 坂本里前遺跡出土遺物実測図②	7
第5図 砂谷遺跡（第3次）出土遺物実測図	11
第6図 広垣外遺跡出土遺物実測図	11
第7図 調査区土層断面・遺構平面図	12
第8図 調査区地形図	13
第9図 湯田西浦遺跡調査区平面図	15
第10図 湯田西浦遺跡出土遺物実測図	15
第11図 湯田西浦遺跡調査区土層断面図	16

表 目 次

第1表 坂本里前遺跡出土遺物観察表	8・9
第2表 砂谷遺跡（第3次）出土遺物観察表	9
第3表 広垣外遺跡出土遺物観察表	11
第4表 湯田西浦遺跡出土遺物観察表	14

写真目次

写真図版1 坂本里前遺跡(1)	18
写真図版2 坂本里前遺跡(2)	19
写真図版3 砂谷遺跡(第3次)・広垣外遺跡(1)	20
写真図版4 広垣外遺跡(2)・湯田西浦遺跡	21

I 前 言

1. 事業内容と調査遺跡

ここで報告する遺跡は、平成25年度高度水利機能確保基盤整備事業（有田地区）に伴い、調査記録保存を実施したものである。工事の事業主体は、三重県農林水産部農業基盤整備課で事業内容は農水管の埋設工事である。今回の事業地は4カ所の遺跡にかかる所であり、工事に伴い立会調査を三重県埋蔵文化財センター実施した。

調査遺跡は、坂本里前遺跡（1）、砂谷遺跡（2）、広垣戸遺跡（3）湯田西浦遺跡（11）である。

（遺跡番号：第1図参照）

2. 文化財保護法に関する諸手続

文化財保護法（昭和25年法律第214号）および三重県文化財保護条例（昭和32年条例第72号）にかかる諸手続は以下のとおりである。

○三重県埋蔵文化財保護条例第48条第1項

・平成25年6月6日付 勢農第3136号

三重県知事から三重県教育委員会教育長あて

「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等の発掘通知」

（湯田西浦遺跡・坂本里前遺跡・砂谷遺跡

・広垣外遺跡）

○文化財保護法第100条第2項

・平成26年3月13日付 教委第12-4426号

三重県教育委員会教育長から伊勢警察署署長あて

「埋蔵文化財の発見について（通知）」

（坂本里前遺跡）

・平成26年3月13日付 教委第12-4427号

三重県教育委員会教育長から伊勢警察署署長あて

「埋蔵文化財の発見について（通知）」（砂谷遺跡）

・平成26年3月13日付 教委第12-4428号

三重県教育委員会教育長から伊勢警察署署長あて

「埋蔵文化財の発見について（通知）」（広垣外遺跡）

・平成26年4月30日付 教委第12-4401号

三重県教育委員会教育長から伊勢警察署署長あて

「埋蔵文化財の発見について（通知）」（湯田西浦遺跡）

3. 調査経過

今回の調査は、4遺跡とも工事立会による農業用管水路の埋設箇所のみ範囲である。調査対象地は道路で、重機掘削による表土除去、人力による包含層及び遺構掘削を行った。

広垣外遺跡（3）は、11月11日～13日にかけて、調査区を東側から西側に向けて実施した。

坂本里前遺跡（1）は、11月18日～21日にかけて、調査区の南端を西側から東側に向けて実施した。

12月2日、9日は、調査区の北端を東側から西側に向けて実施した。12月10日～13日及び12月16日、17日にかけては、調査区中央部を北側から南側に向けて実施した。

砂谷遺跡（2）は、1月14日、16日、17日に、調査区の東端を南側から北側に向けて実施した。1月20日～24日にかけては、南端を西側から東側に向けて実施した。1月28日は、遺跡の北側隣接地を実施した。なお、坂本里前遺跡（1）及び砂谷遺跡（2）については、調査の結果、遺跡の範囲が拡大することを把握したため、平成26年3月7日付、教埋520号で県教育委員会教育長に通知し、所定の事務手続きを行った。

湯田西浦遺跡（11）は、2月20日、25日、27日に調査区約100mを西側から東側まで実施した。三日間とも重機掘削による表土除去を行い、包含層及び遺構掘削、全景写真及び実測を行った。各遺跡とも調査最終日には農林水産部農業基盤整備課に現地を引き渡した。

4. 調査の方法

今回は、いずれも細長い狭小な調査区で工事立会型式である。路面（アスファルト）から地山までの間は基本的に重機で除去し、その後に遺構検出と遺構掘削を人力で行った。

Ⅱ 位置と環境

1. 位置と地形

今回の事業地である有田地区は、北方を大仏山丘陵、西方を玉城丘陵で囲まれ、南に外城田川、東に宮川が流れている。標高は15m前後の広い平地になっている。当地区には数多くの遺跡が分布しているが、本報告書では、調査地である有田地区の坂本周辺と湯田周辺を中心に歴史的環境を概観する。

明治22年の町村合併により有田村となったこの地は、もともと世古から日向に連なる有爾郷の村々と、大仏山南麓に開けた外城田川左岸の湯田郷の村々に分かれていた。(有田は、両郷の1字を取り名づけられた)。有田村は、現在の玉城町北東部、伊勢市小俣町湯田・小俣町新村、多気郡明和町大字明星の一部(妻ヶ広地区)にあたる。

2. 歴史的環境

a 旧有爾郷の村々

有爾郷の村々は、古代から土師器を造る職業集団の住む里であった。「皇大神宮儀式帳」^①・「延喜大神宮式」^②には、伊勢神宮の祭典に欠かせない神饌を盛る土器作りについて記されているが、この土器調進をつかさどっていたのは、古来より有爾郷であったという。有爾の名は「和名類聚抄」^③にいう伊勢国多気郡の郷名として登場し、平安時代後期以来の伝統をもつ地名である。

有爾郷は、世古・門前・坂本・谷・別所・吉祥寺・井倉の旧七か村と、下有爾(明星)・有爾中・蓑村の旧三か村にあたる。ここは、土師器焼成遺構が密集する地域で、奈良時代前後の遺構が数多く確認されている。中世以降の土器生産を示す遺跡・遺構については、数は少ないが、世古遺跡(15)(玉城町世古)や今回の調査遺跡である砂谷遺跡(2)(玉城町坂本)で16～17世紀代の未使用・多器種の土器類が出土しており、土器焼成坑の存在を想定されるような土坑が検出されている。『玉城町史』^④によると、世古の神光山常願寺に保管されている「有爾記巻物式巻」という江戸時代の文書には、当時の世古村が有爾土器組十か村の中心にあり、ここで土器神役人が会合

したという記録があり、祭器の土器原料埴(粘土)をとる清浄な土取場があったと記されている。また、坂本から世古に向かう古道の丘の麓の畑地に多量の土器片が埋まり土錘も出土している。さらに、正随院から北へ坂道を下りた田圃の傍らに、多量の土器片が出土した。これらは使用した形跡がないので焼き損じた土器の捨て場とみられている。

これまでのさまざまな検証により「有爾郷」の地において古代から中世にかけて神宮への土器調進が行われていることが考えられており^⑤、現在も蓑村にある神宮御料土器調整所では伊勢神宮で使用する土師器が生産されている。

旧吉祥寺村と旧別所村は、明治の合併により玉川という地名になった。この地にある吉祥寺池と牛尾崎池周辺では、弥生時代の石包丁・石皿・石棒が出土している。また、上玉川の矢田山の西に牛頭天王社がある。その登山口からは竈跡とされるものが見つかっており、世古・坂本と同じ破損した土器片が出土している。

今回の調査遺跡である坂本里前遺跡(1)砂谷遺跡(2)、広垣戸遺跡(3)は、度会郡玉城町坂本に所在し、玉城丘陵の縁辺部にある。玉城丘陵は、標高30～50mの起伏の小さい丘となっている。最近が開発が進み、集落・果樹園・ゴルフ場になっている。丘陵地の縁辺部には台地や段丘がみられ、その段丘面は集落となっている。特に丘陵の東南端の城山(51.6m)周辺は市街地となっている。丘陵地内には、大小の池が多くあり、その数は19箇所にも及び池面積が比較的広大である。

b 旧湯田郷の村々

湯田郷は、宮川左岸以西、大仏山南麓から城田・小社・岡出を含む広大な地域で、伊勢神宮成立以来神領であった。県道37号線の湯田バス停南200mの所に内宮摂社湯田神社がある。「皇大神宮儀式帳」には、この湯田神社の四方の様子が書かれており、東と南は川、西と北は田とある。つまり、千二百年以上前には外城田川の古流が流れていたことがわかっている。

湯田郷には、妙法寺・中楽・久保・長更・岡村の村々が属していた。調査遺跡である湯田西浦遺跡(11)は、西を長更・岡村、南を妙法寺・中楽・久保に囲まれた所に位置し、外城田川とその支流である相合川に挟まれた沖積平野の微高地上に所在する。今回の調査区からは、古墳時代を中心とする遺物が出土しており、周辺遺跡との関係が重要となる。妙法寺・中楽には、塚田古墳群(13)と茶臼塚古墳群(14)がある。田丸道遺跡(12)の第2次調査(平成22年度)では、遺跡内にある塚田古1号墳、2号墳が調査対象となり、この調査では古墳時代の流路と堰などの遺構、甕や高坏などの遺物が見つかった。また、茶臼塚古墳群(14)は田丸道遺跡の南側に隣接する。さらに妙法寺の西側に隣接する寺田遺跡(15)の第2次(平成22年度)では、溝から古墳時代の土器が多数出土しており、古墳時代にはすでに集落の形成

がなされていたと考えられる。今回報告する湯田西浦遺跡(11)についても、これらに係るものといえよう。

【註】

- ①『群書類従』第一輯所収
 - ②神道体系編纂会『神道体系 古典編十一 延喜式(上)』
 - ③「ウニ」の表記は京都大学文学部国語学国文学研究室編『諸本集成 和妙類聚抄』の高山寺本(史料編纂所古簡集影)による。
 - ④玉城町編『玉城町史』(1995年)
 - ⑤三重県『三重県史 資料編考古2』(1998年)
- 田村陽一「北野遺跡」『平成2年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』第2分冊 三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター(1991年)

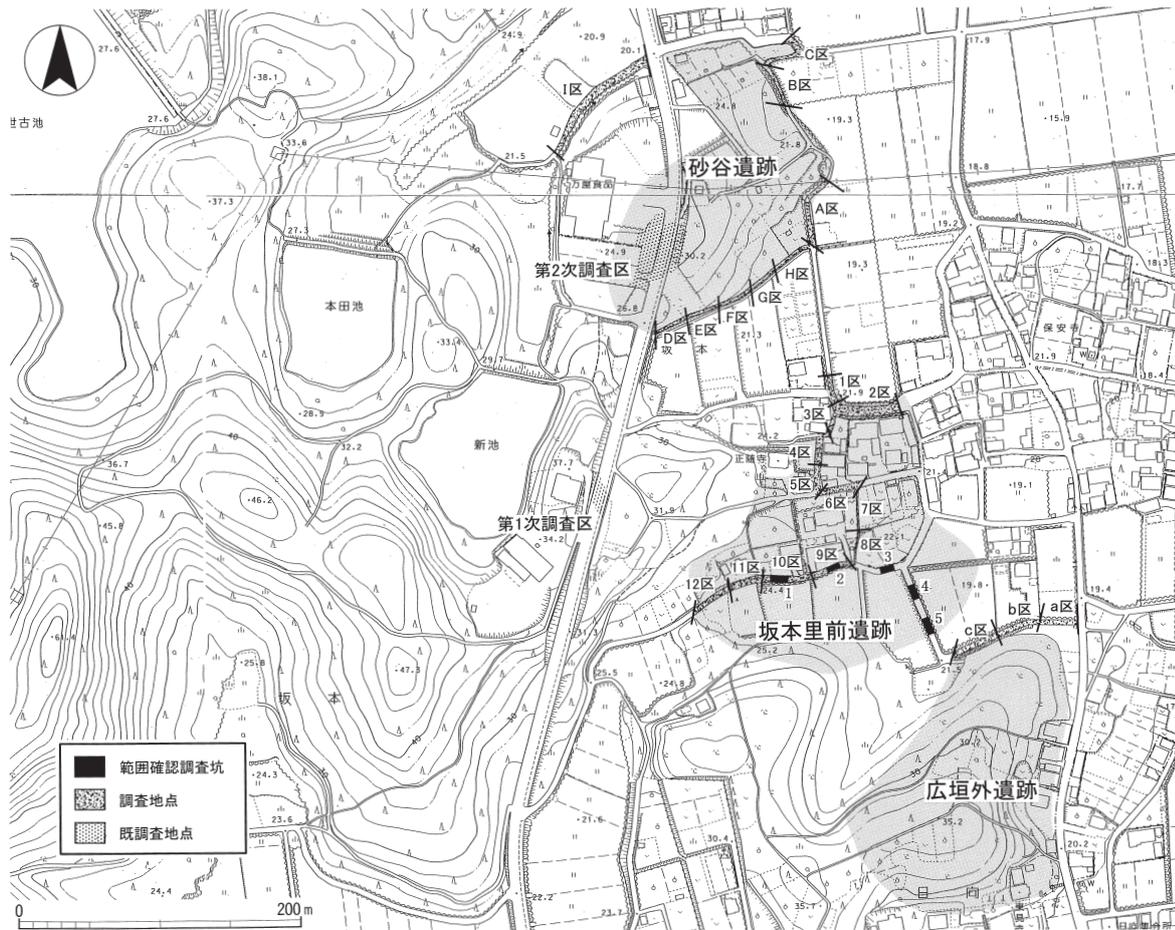


- | | | | | | | |
|-----------|------------|------------|------------|-----------|-------------|------------|
| 1. 坂本里前遺跡 | 2. 砂谷遺跡 | 3. 広垣外遺跡 | 4. 門前坊山遺跡 | 5. 坂ノ垣内遺跡 | 6. 下里遺跡 | 7. 細井原遺跡 |
| 8. 世古里中遺跡 | 9. 追問垣内遺跡 | 10. 西垣内遺跡 | 11. 湯田西浦遺跡 | 12. 田丸道遺跡 | 13. 塚田古墳 | 14. 茶臼塚古墳群 |
| 15. 寺田遺跡 | 16. 南浦遺跡 | 17. 田丸城跡 | 18. 上町遺跡 | 19. 天神山城跡 | 20. 高垣内遺跡 | 21. 西街道遺跡 |
| 22. 西世古遺跡 | 23. 師子焼遺跡 | 24. 広垣外遺跡 | 25. 藤原遺跡 | 26. 堀田遺跡 | 27. 北野遺跡 | 28. 能満寺跡 |
| 29. 黒土遺跡 | 30. 外山遺跡 | 31. 養村大塚遺跡 | 32. 鳥墓遺跡 | 33. カリコ遺跡 | 34. 西新村西浦遺跡 | 35. シング池遺跡 |
| 36. 百町遺跡 | 37. 大仏山古墳群 | 38. 六軒屋遺跡 | 39. 門前里中遺跡 | 40. 西裏遺跡 | | |

第1図 遺跡位置図(1:50,000) [国土地理院「明野」「松阪」]

[参考文献]

- ・ 玉城町編『玉城町史』(1995年)
- ・ 三重県埋蔵文化財センター『平成21～23年度県営農業基盤整備事業地域(伊勢管内)埋蔵文化財発掘調査報告』(2013年)
- ・ 金子延夫『玉城町史』一巻・三巻(1982年・1984年)
- ・ 上村安生「各地域の土師器生産と土師器焼成遺構 東海」(『古代土師器生産と焼成遺構』窯跡研究会(1997年))
- ・ 伊藤裕偉「有爾郷の中世土器生産者像」『研究紀要』第20号 三重県埋蔵文化財センター(2011年)
- ・ 玉城町教育委員会『砂谷遺跡発掘調査報告』(1988年)



第2図 調査区地形図(1:5,000)

Ⅲ 坂本里前遺跡

1. 調査経緯と調査区の状況

坂本里前遺跡は、度会郡玉城町坂本字里前に所在する。平成25年度高度水利機能確保基盤整備事業(有田地区)に伴い、平成25年6月25日に範囲確認調査を行った。

事業地内には7箇所の調査坑を配置し、谷水田部に面した所に調査坑1～5、丘陵部に相当する所に調査坑6・7とした。その結果、谷水田部では調査坑1・2で、平安時代後期から室町時代の土器類が出土した。いっぽう丘陵部では、室町戦国時代頃の土師器が極めて濃密に散布していた。さらに、調査坑6・7いずれからも溝・土坑などの遺構が確認され、室町戦国時代頃の土器類が出土した。このため平成25年11月18日から12月17日にかけて立会調査を行った。

事業地は、管を埋設するために総延長350mのトレンチを掘削した。最終調査面積は280㎡であった。

2. 調査の経過

坂本里前遺跡の立会調査は、平成25年11月18日から開始し、同年12月17日に終了した。

調査日誌(抄)(調査区:第2図参照)

11月18日	12区調査
11月19日	11区調査
11月20日	10区調査
11月21日	9区調査
12月2日	2区調査
12月9日	1区調査
12月10日	3区調査
12月11日	4区調査
12月12日	5区調査
12月13日	6区調査
12月16日	7区調査
12月17日	8区調査

3. 層位と遺構

層位 1区(遺跡の北限)は、大半は盛土で、攪乱されていた。現道が北へ曲がる付近では、第3層か

ら第5層が、後世の攪乱による盛土であった。第6層上面(45cm下)で、SK1と認識できる遺構らしきものを確認し、SK1とした。埋土は、黒褐色土で16世紀代の土師器鍋等が出土した。

2区は、盛土内で工事掘削はおさまった。東側から掘削をはじめ、6.5mのあたりで碎石の下層の盛土が変化した。

3区～6区は、過去の下水道管の埋設でかなり削平を受け、攪乱されていた。これらの工事により盛土がおこなわれ、碎石をひきアスファルトが舗装されている。3区は、第2層が盛土で約40cm下で地山に達した。4区は、第2層が碎石で第3層は盛土であった。5区は、第5層(約70cm下)で地山に達した。地山は固い混入の山土であった。

4区では、路面下140cm地点で地山に達した。南端部付近で円形土坑SK2を検出した。埋土には16世紀代の土師器を含んでいた。

7区・8区は、今回の調査では、ともに標高が一番高い丘陵部であった。周辺の畑地では、16世紀頃の土師器が濃密に分布していた。中央部では、表土直下で地山となっていたが、北へ向かうにつれてヒューム管の埋設があり(地元の人の話では周辺の畑の下に水路が埋設されているとのこと)、U字溝埋設があったりなどで攪乱を受けている。攪乱の埋土により、古墳時代後期から奈良時代にかけての土師器甕が出土している。8区の南へ向かう斜面では、20m程の遺物包含層が見られ、16世紀代の遺物を含んでいた。丘陵部には、古代以前の遺構が確認される可能性がある。

7区の中央開始地点は、第2層(20cm下)で地山に達した。北端付近は、第2層(約20cm)から盛土になり、第3層(約70cm下)で地山に達した。

8区は、第2層(約20cm下)で地山に達した。南端付近では、第2層(約40cm下)で遺物包含層を確認し、第3層(約60cm下)で地山に達した。

9区～12区は、現道を掘削して管を埋設されたが、すでに水道管や下水道管が埋設されており層位はすべて盛土であった。4区間では盛土の層は厚く、約1.0から1.2mの深さまで掘削したが地山に達しなかつ

た。

遺構 坂本里前遺跡で検出された遺構は2基ある。第1区ではSK1を検出した。埋土は黒褐色土で15世紀後半から16世紀代の土師器が含まれていた。第4区ではSK2を確認した。埋土には16世紀代の土師器が含まれていた。

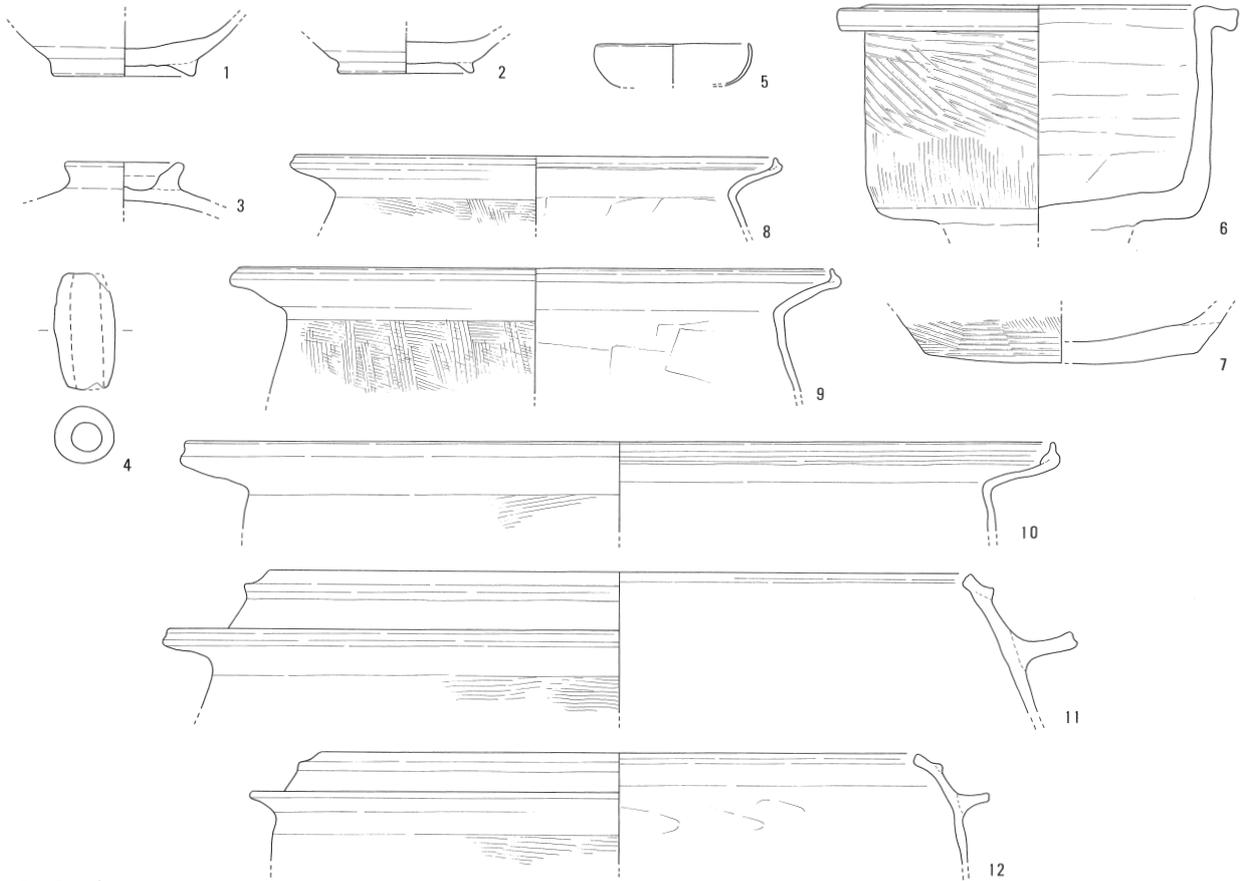
4. 出土遺物

坂本里前遺跡で出土した遺物は、コンテナケース6箱、重さ33.6kgである。器種については、主に土師器甕、土師器羽釜、土師器鍋、渥美産山茶碗、が

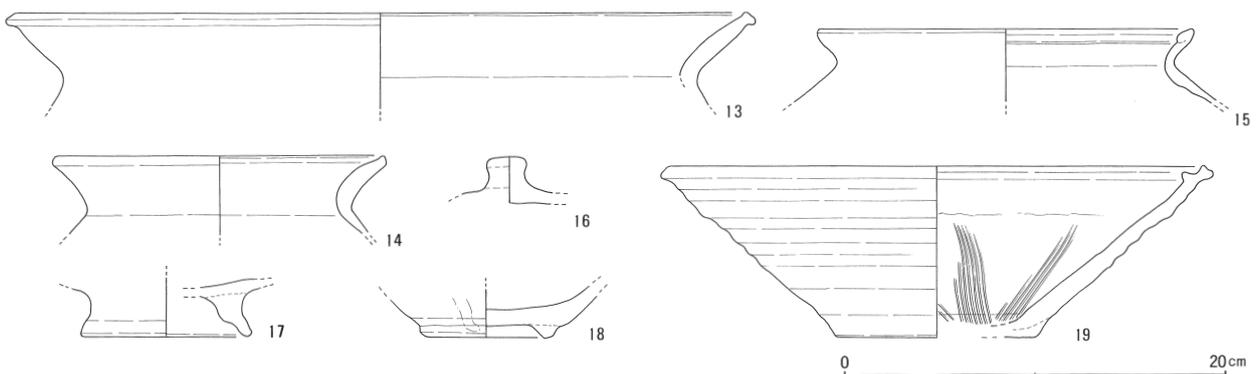
出土している。特筆すべきは、7区、1区での遺物が目立つという点である。中でも7区から6～8世紀の頃の土師器甕が多数出土した。1区では、特に中世南伊勢系土師器が目立って出土している。また4区は、主に土師器類で古墳後期から平安時代のもので出土した。遺物数の多い順では、7区、1区、4区となった。個々の詳細については、実測図(第3・第4図)と遺物観察表(第1表)を参照されたい。

1区の出土遺物(1～12) 1～11はSK1の出土遺物である。1・2は渥美産の山茶碗で、鎌倉時代(12世紀から13世紀頃)のものである。3～12は土師

1区(1～12)

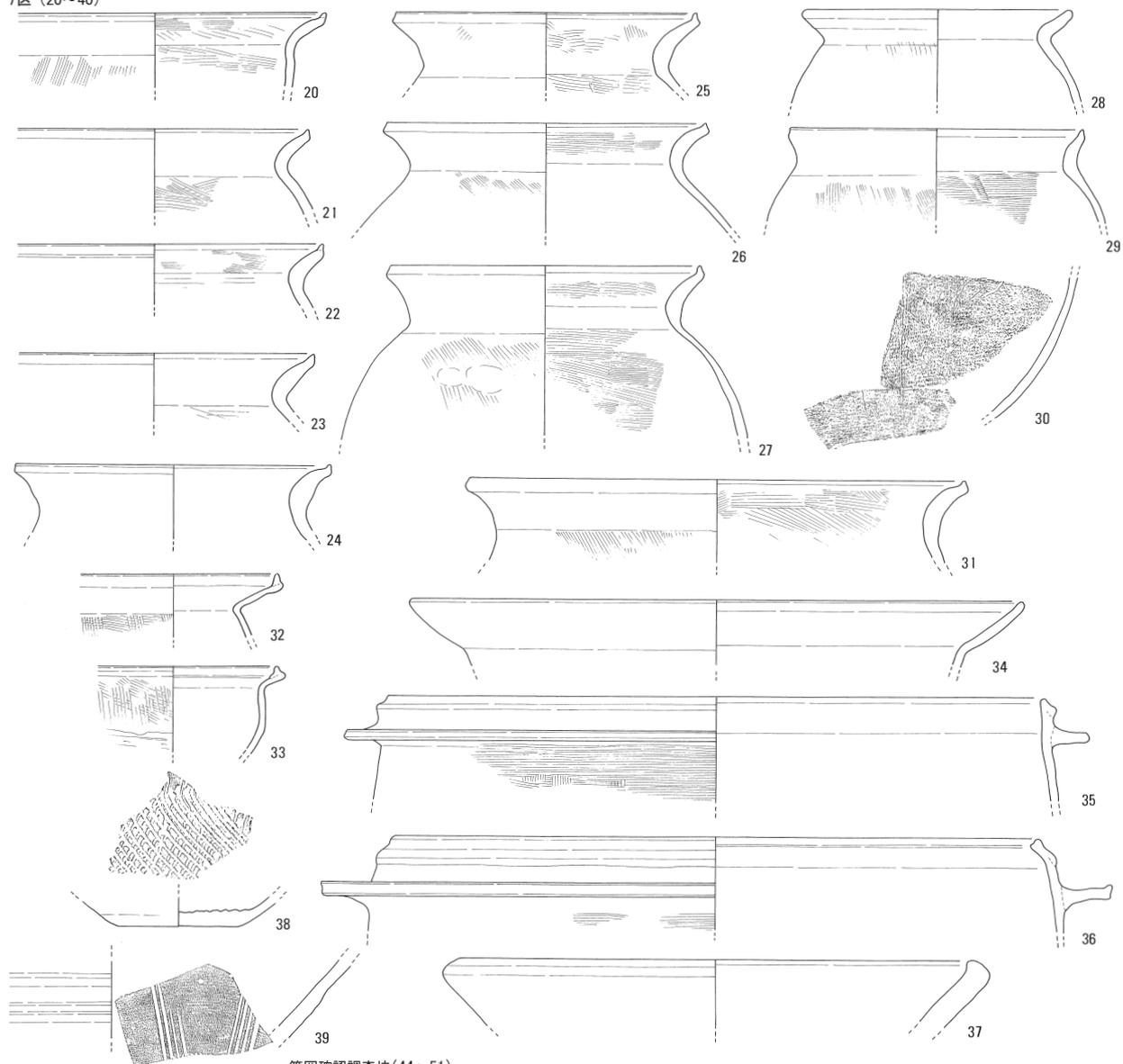


4区(13～19)

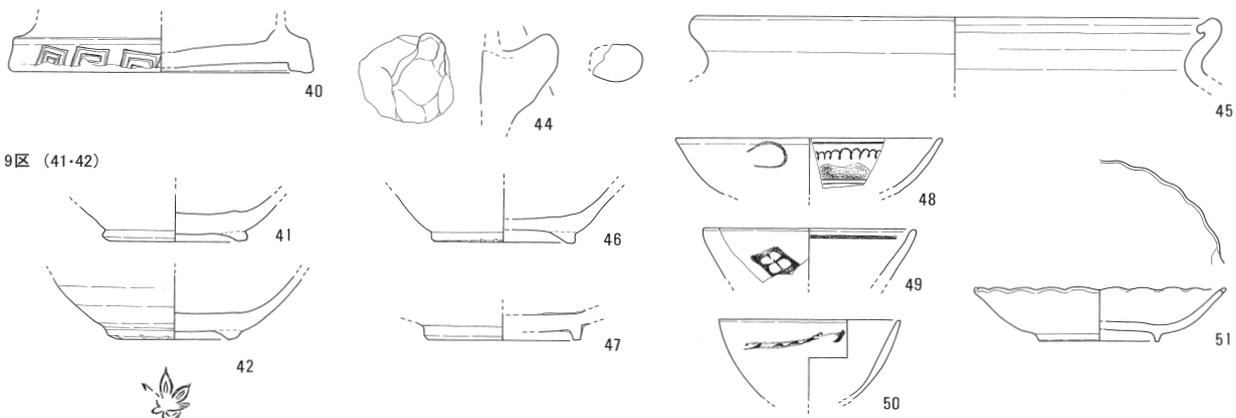


第3図 坂本里前遺跡出土遺物実測図①(1:4)

7区 (20~40)

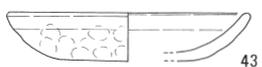


範囲確認調査坑(44~51)



9区 (41-42)

11区 (43)



第4図 坂本里前遺跡出土遺物実測図② (1:4)

器である。3は平安時代後期の甕の落し蓋の摘みの部分であると考えられる、4は土師器の土錘である。5～11は、南伊勢中世IV期頃のものと考えられる。5は皿である。6は底部にもともとあった脚部が剥離した痕跡が見受けられる。おそらく香炉か線香立てではないかと考える。時代的には、この土坑から出土している土師器が南伊勢中世IV期のものであることから15世紀から16世紀頃のものであろう。つまり鎌倉時代から室町時代にかけての遺物が見られるが、鎌倉時代ものは混入したものであると考える。

12は土師器羽釜で同じく南伊勢中世IV期のものである。

4区の出土遺物(13～19) 4区の出土遺物は、古墳時代後期から室町時代までの幅広いものであった。

13～15は土師器甕で、13は古墳時代後期から古代、14は飛鳥時代、15は中世Ic期(12世紀終わり)のものである。16、17の土師器はともに蓋状のもので、17は落し蓋の形状をなしている。16は平安時代に見られる土師器ではないかと考える。18は渥美第4型式の山茶碗で、漬け掛け灰釉が流れた跡がある。19は瀬戸の片口鉢(後IV新)で15世紀末頃のものである。

7区の出土遺物(20～40) 7区では、6世紀末から8世紀前半の土師器がまとまって出土した。20～31は土師器甕で、6世紀後半から8世紀前半にかけてのものである。32～34は土師器鍋で15世紀末から16世紀以降のものである。35・36は土師器羽釜でと

もに16世紀代のものである。37は常滑の鉢で15～16世紀頃のものである。38・39はともに古瀬戸後期(15世紀代)の陶器であり、38は卸皿、39は挿鉢である。40は瀬戸の瓶掛である。18世紀末から19世紀初頭のものであり、文様から旧瀬戸村の勇右衛門窯で焼かれたものと考えられる^①。

9区の出土遺物(41・42) 41・42は渥美産山茶碗で、ともに13世紀頃のものである。

11区の出土遺物(43) 43は土師器皿で12世紀頃のものである。

範囲確認調査の出土遺物(44～51) 44は把手で甑でないしは鉢と考えられ、平安時代以前のものであろう。45は土師器の甕である。時期は12世紀頃である。46は山茶碗で、尾張第5型式(12世紀)に相当する。47は青磁碗である。鎌倉時代の終わりから室町時代前半のもので、内面の見込みの釉を軽く搔きとってある。48は染付皿で、室町時代から戦国時代のものである。49は瀬戸の染付碗で江戸後期のものである。50は磁器の染付皿、51は陶器皿とともに明治以降のものである。

【註】

①藤澤良祐「主要窯跡の概要」『瀬戸の窯跡群』同成社(2005年)
[参考文献]

・伊藤裕倫「南伊勢・志摩地域の中世土器」『三重県史 資料編 考古2』三重県(2008年)

・藤澤良祐「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要』第3号
三重県埋蔵文化財センター(1994年)

・『愛知県史 別編 中世・近世 瀬戸系 窯業2』(2007年)

NO	実測番号	種類	器種	地区	遺構・層位	法量(cm)	残存度	器面調整	胎土	色調	備考
1	8-4	陶器 (山茶碗)	碗	1区	SK1	(高台)7.0	高台部 11/12	— (外)貼付ヨコナデ・ロクロナデ (内)ロクロナデ→重傷痕	密	灰白	渥美
2	8-5	陶器 (山茶碗)	碗	1区	SK1	(高台)6.8	高台部 3/12	— (外)貼付ヨコナデ・ロクロナデ→糸切り (内)ロクロナデ	密	灰黄	渥美
3	9-1	土師器	落し蓋	1区	SK1	(台)5.0	台部 8/12	— (外)貼付ナデ・ナデ (内)ナデ	密	浅黄橙	平安後期
4	9-4	土師器	土錘	1区	SK1	(全長)6.1(最大幅)3.1	—	—	密	にぶい浅黄橙	孔径1.5cm、重さ43g
5	9-3	土師器	皿	1区	SK1	(口)8.0	口縁部 2/12	— (外)オサエナデ (内)ナデ	密	浅黄橙	南伊勢IVa(15c後半)
6	8-3	土師器	香炉か?	1区	SK1	(口)17.0(鏝)21.0(体)18.2	口縁部 5/12	— (外)ナデ・ハケメ・ヨコナデ・ (内)オサエナデ・ヨコナデ	密	にぶい黄橙	南伊勢系土師器IV期ごろのもの(15～16c)。
7	9-2	土師器	不明	1区	SK1	(底)14.4	底部 4/12	— (外)オサエナデ・ハケメ (内)ナデ	密	浅黄橙	中世III～IV期
8	8-1	土師器	鍋	1区	SK1	(口)25.2 (頸)21.0	口縁部 1/12	頸部 2/12 (外)ハケメ (内)ハケメ	密	灰白	南伊勢IVa
9	7-3	土師器	鍋	1区	SK1	(口)34.1 (頸)26.0	口縁部 2/12	頸部 2/12 (外)ハケメ・ヨコナデ (内)工具ナデ・ヨコナデ	密	灰白	南伊勢IVa
10	8-2	土師器	鍋	1区	SK1	(口)45.5 (頸)39.0	口縁部 2/12	頸部 2/12 (外)ハケメ・ヨコナデ (内)工具ナデ・ヨコナデ	密	淡黄	南伊勢IVa
11	7-1	土師器	羽釜	1区	SK1	(口)36.8 (鏝)48.0	口縁部 1/12	鏝 1/12 (外)ハケメ・貼付ナデ・ヨコナデ (内)ナデ・ヨコナデ	密	にぶい橙	南伊勢IVa
12	7-2	土師器	羽釜	1区	橙色 粘質土層	(口)35.4 (鏝)38.8	口縁部 1/12	鏝 1/12 (外)ハケメ・貼付ナデ・ヨコナデ (内)ナデ・ヨコナデ	密	浅黄橙	南伊勢IVb
13	5-1	土師器	甕	4区	包含層	(口)38.4 (頸)33.4	口縁部 2/12	頸部 1/12 (外)ヨコナデ (内)ヨコナデ	密	(外)橙 (内)にぶい黄橙	古墳後期から古代 内面下の部分剥離
14	4-3	土師器	甕	4区	包含層	(口)17.2 (頸)14.0	口縁部 2/12	頸部 2/12 (外)ナデ・ヨコナデ (内)ナデ・ヨコナデ	密	にぶい黄橙	飛鳥時代 外内面とも磨滅著しい
15	5-2	土師器	甕	4区	包含層	(口)19.6 (頸)17.8	口縁部 2/12	頸部 2/12 (外)ヨコナデ (内)ヨコナデ	密	橙	外内面とも磨滅。

16	4-6	土師器	蓋?	4区	包含層	—	—	—	貼付ナデ・ナデ	密	(外)浅黄橙 (内)黄褐	把手のみ
17	4-7	土師器	碗	4区	包含層	(台部)9.0	台部 1/12	—	ナデ?	密	橙	外内面とも磨滅。
18	5-3	陶器 (山茶碗)	碗	4区	包含層	(高台)6.2	—	—	(外)貼付高台ナデ (内)ロクロナデ	密	灰白	濯美
19	6-1	陶器 (すり鉢)	片口鉢	4区	包含層	(口)28.0(底)10.0 (高)9.0	口縁部 1/12	底部 2/12	(外)ナデ・回転ナデ (内)回転ナデ→節目	密	(外)橙 (内)にぶい黄褐	瀬戸後IV新 15c末
20	3-4	土師器	甕	7区 北から29mあたり	包含層	—	—	—	(外)ハケ・ヨコナデ (内)ハケ・ヨコナデ	密	橙	6世紀から8世紀頃
21	3-2	土師器	甕	7区 北から29mあたり	包含層	—	—	—	(外)ヨコナデ (内)ヨコナデ・ハケ	密	橙	6世紀から8世紀頃
22	3-3	土師器	甕	7区 北から29mあたり	包含層	—	—	—	(外)ヨコナデ・ナデ (内)ナデ・ハケ・ヨコナデ	密	(外)にぶい黄 (内)明黄褐	6世紀から8世紀頃
23	3-1	土師器	甕	7区 北から29mあたり	包含層	—	—	—	(外)ヨコナデ (内)ヨコナデ・ハケ	やや 密	浅黄橙	6世紀から8世紀頃
24	1-3	土師器	甕	7区 北から29mあたり	包含層	(口)18.2 (頸)15.5	口縁部 4/12	頸部 3/12	(外)ヨコナデ (内)ヨコナデ	やや 密	浅黄橙	6世紀から8世紀頃 外内面とも磨滅
25	2-3	土師器	甕	7区 北から29mあたり	包含層	(口)17.5 (頸)14.2	口縁部 3/12	頸部 3/12	(外)ヨコナデ・ハケ (内)ヨコナデ・ハケ	密	浅黄橙	6世紀から8世紀頃
26	1-2	土師器	甕	7区 北から29mあたり	包含層	(口)18.6 (頸)15.8	口縁部 5/12	頸部 5/12	(外)ヨコナデ・ハケ (内)ハケ	やや 密	橙	6世紀から8世紀頃 内面磨滅
27	1-1	土師器	甕	7区 北から26mあたり	包含層	(口)18.0 (頸)15.7	口縁部 5/12	頸部 5/12	(外)ヨコナデ・ハケ (内)ハケ	やや 密	橙	6世紀から8世紀頃 外面磨滅
28	4-1	土師器	甕	7区 北から10mあたり	包含層	(口)15.4 (頸)13.2	口縁部 2/12	頸部 2/12	(外)ハケ・ヨコナデ (内)ナデ・ヨコナデ	密	(外)にぶい黄橙 (内)浅黄橙	6世紀から8世紀頃
29	1-4	土師器	甕	7区 北から29mあたり	包含層	(口)17.0 (頸)16.2	口縁部 1/12	頸部 3/12	(外)ヨコナデ・ハケ (内)ヨコナデ・ハケ	やや 密	橙	6世紀から8世紀頃
30	2-4	土師器	甕	7区 北から29mあたり	包含層	—	—	—	(外)ハケメ・ヘラ措 (内)ケズリ・ハケメ	密	橙	6世紀から8世紀頃
31	2-2	土師器	甕	7区 北から26mあたり	包含層	(口)28.9 (頸)25.8	口縁部 2/12	頸部 2/12	(外)ヨコナデ・ハケ (内)ヨコナデ・ハケ	やや 密	橙	6世紀から8世紀頃
32	4-5	土師器	鍋	7区	包含層	—	—	—	(外)ハケメ・ヨコナデ (内)ナデ・ヨコナデ	密	にぶい黄橙	南伊勢IV期
33	5-6	土師器	鍋	7区 北から10mあたり	包含層	—	—	—	(外)ケズリ・ハケメ・ヨコナデ (内)ナデ・ヨコナデ	密	(外)にぶい黄橙 (内)明黄褐	南伊勢IV期
34	4-2	土師器	鍋?	7区 北から10mあたり	包含層	(口)35.6	口縁部 2/12	—	(外)ヨコナデ (内)ナデ・ヨコナデ	密	橙	
35	6-3	土師器	羽釜	7区 北から10mあたり	包含層	(口)38.3 (鏑)43.5	口縁部 2/12	鏑 2/12	(外)ハケメ・貼付ナデ・ヨコナデ (内)ナデ・ヨコナデ	密	明黄褐	南伊勢IV期
36	6-2	土師器	羽釜	7区 北から10mあたり	包含層	(口)37.5 (鏑)46.0	口縁部 1/12	鏑 1/12	(外)ヨコハケメ(合成)・貼付ナデ・ヨコナデ (内)ナデ・ヨコナデ	密	黄橙	南伊勢IV期
37	2-1	土師器	鉢	7区 北から26mあたり	包含層	(口)29.8	口縁部 1/12	—	(外)回転ナデ (内)回転ナデ	やや 密	浅黄橙	常滑 黒い部分あり。灰か?
38	5-7	陶器 (おろし皿)	皿	7区 北から10mあたり	包含層	(底)6.8	底部 5/12	—	(外)ロクロナデ→糸切痕 (内)ロクロナデ	密	にぶい黄橙	古瀬戸後期(15c-f)
39	5-4	陶器 (播鉢)	鉢	7区	包含層	—	—	—	(外)ロクロナデ (内)ロクロナデ	密	(外)にぶい橙 (内)明黄褐	古瀬戸後期(15c-f)
40	5-5	陶器 (瓶掛)	鉢	7区	包含層	—	—	—	(外)ロクロナデ→施釉、露胎 (内)ロクロナデ	密	(釉)オリブ (素地)淡黄	瀬戸瓶掛 勇右衛門窯
41	10-2	陶器 (山茶碗)	碗	9区	包含層	(高台)7.0	高台部 7/12	—	(外)貼付ヨコナデ・ロクロナデ→糸切り (内)ロクロナデ	密	灰白	濯美
42	10-5	陶器 (山茶碗)	碗	9区	包含層	(高台)5.8	高台部 12/12	—	(外)貼付ヨコナデ・ロクロナデ→糸切り (内)ロクロナデ	密	灰白	濯美 高台部にモミガラ痕
43	4-4	土師器	皿	11区	—	(口)12.6 (高)2.5	—	—	(外)オサエ・ナデ・ヨコナデ (内)ナデ・ヨコナデ	密	灰白	
44	10-4	土師器	不明	範囲確認調査坑2	包含層	—	—	—	—	密	にぶい黄橙	把手のみ
45	10-1	土師器	甕か鍋	範囲確認調査坑1	包含層	(口)27.4 (頸)26.0	口縁部 1/12	頸部 1/12	(外)ヨコナデ (内)オサエナデ・ヨコナデ	密	浅黄	
46	10-3	陶器 (山茶碗)	碗	範囲確認調査坑1	包含層	(高台)7.0	高台部 3/12	—	(外)貼付ヨコナデ・ロクロナデ→糸切り (内)ロクロナデ	密	灰	尾張 高台部にモミガラ痕
47	11-2	磁器	皿	範囲確認調査坑6	包含層	(高台)7.8	高台部 3/12	—	(外)ロクロナデ→施釉 (内)ロクロナデ→施釉	密	素地→灰白 釉色→オリブ灰	青磁皿(14~15c)
48	11-5	磁器	皿	範囲確認調査坑7	包含層	(口)13.9	口縁部 1/12	—	(外)ロクロ(施釉) (内)ロクロ(施釉)	密	素地→浅黄橙 釉色→灰白	
49	11-4	陶器	碗	範囲確認調査坑7	包含層	(口)11.0	口縁部 2/12	—	(外)ロクロ(施釉) (内)ロクロ(施釉)	密	素地→灰白 釉色→灰白	瀬戸
50	11-1	磁器	碗	範囲確認調査坑6	包含層	(口)9.4	口縁部 5/12	—	(外)ロクロナデ→施釉(染付) (内)ロクロナデ→施釉(染付)	密	灰白	
51	11-3	陶器	皿	範囲確認調査坑7	包含層	(口)9.2(高)2.8 (高台)6.0	口縁部 3/12	高台部 5/12	(外)施釉 (内)施釉	密	灰白	高台部先端釉なし

第1表 坂本里前遺跡出土遺物観察表

NO	実測 番号	種 類	器 種	地区	遺構・ 層位	法 量 (cm)	残存度	器面調整	胎 土	色 調	備 考	
1	2-3	土師器	台付碗	B区	包含層	(高)5.8	高台部 9/12	(外)ナデ・高台貼付ナデ (内)ナデ	密	浅黄橙	平安時代後半	
2	2-2	陶器	甕	B区	包含層	-	-	(外)回転ナデ (内)回転ナデ	密	(外)灰白 (内)濁	常滑 内側剥離	
3	2-4	土製品	土錘	C区	包含層	(推孔)1.1 (径)2.4	-	—	密	(外)にぶい黄 橙 (内)淡黄	重さ6.0kg 残存長さ5.2cm	
4	3-1	土師器	羽釜	C区	包含層	(口)44.0 (鏑)58.8	口縁部 2/12	鏑 2/12	(外)ヨコナデ・工具ナデ 貼付ヨコナデ・ハケメ (内)ヨコナデ・工具ナデ	密	灰白	南伊勢III期
5	1-2	土師器	壺	E区	包含層	(口)14.3	口縁部 1/12	-	(外)工具ナデ・ヨコナデ (内)ヨコナデ・ナデ	密	にぶい黄橙	土師質の壺 胎土 が硬質(近世)
6	1-1	土師器	鍋	E区	包含層	(口)22.4	-	-	(外)ハケメ・ヨコナデ (内)ナデ・ヨコナデ	密	灰白	平安後期
7	2-1	陶器	播鉢	F区	包含層	(底)8.6	底部 2/12	-	(外)ナデ・回転ナデ (内)節目	密	(外)灰オリブ (内)暗灰黄	瀬戸美濃
8	1-3	土師器	鉢	F区	包含層	(口)23.6	口縁部 2/12	-	(外)ナデ・ヨコナデ (内)ヨコナデ・ナデ	密	(外)にぶい黄 橙 (内)明黄褐	近世?

第2表 砂谷遺跡(第3次)出土遺物観察表

IV 砂谷遺跡（第3次）

1. 調査の経緯と調査区の状況

砂谷遺跡は、度会郡玉城町坂本字砂谷に所在する。調査は、平成25年度高度水利機能確保基盤整備事業（有田地区）に伴い平成26年1月14日から28日にかけて圃場整備に伴う道路内への埋設の工事立会を実施した。事業地は谷水田部に面した所と丘陵部に相当する所があった。管を埋設するために総延長250mのトレンチを掘削した。最終調査面積は200㎡であった。

本遺跡は、県道田丸斉明線（通称サニーロード）特殊改良（第1種）工事の施工に先立ち、玉城町教育委員会により、昭和61年に第1次調査、昭和62年に第2次調査及び追加調査が実施されている。第1次調査では、鍋小片5点を確認できたが、調査区全域にわたり遺構は確認できなかった。第2次調査では、幅3.5m、深さ2.4mの中世城郭の堀を思わせる規模のV字溝が検出され、多量の土器が出土している。

2. 調査の経過

砂谷遺跡の調査は、平成26年1月14日から開始し、同年同月28日に終了した

調査日誌（抄）（調査区：第2図参照）

1月14日 A区調査
1月16日 B区調査
1月17日 C区調査
1月20日 D区調査
1月21日 E区調査
1月22日 F区調査
1月23日 G区調査
1月24日 H区調査
1月28日 I区調査

3. 層位と遺構

基本的に工事掘削は盛土範囲内で収まっているものが大半であった。唯一地山を確認したC区でも遺構は確認できなかった。

層位：A区は灰黄褐色土の下に混入土の盛土が堆積していた。盛土の下には青灰～明青灰粘質土が堆積していた。

B区は灰黄褐色土の下に黄褐色～青灰粘質土の包含層が堆積していた。

C区では碎石の下に厚さ25cm程の褐灰色土の遺物包含層があり、第3層（約30cm下）で橙色土の地山が残っていた。

D区～H区は、圃場整備の際に丘陵の削平と盛土によって農道がつけられた場所と考えられる。全体に、灰黄褐色土の下に遺物包含層が堆積していた。

I区は、当遺跡の北西に位置する隣接地で、丘陵裾にあたる。路面下80cmで湿地状のグライ層に達した。谷状の湿地であったとみられる。遺構、遺物はなかった。

基本層位は、灰褐色粘質土の表土、青灰色粗砂の旧側溝埋土、橙色粘土質砂～青灰色粘土の軟弱なグライ層であった。

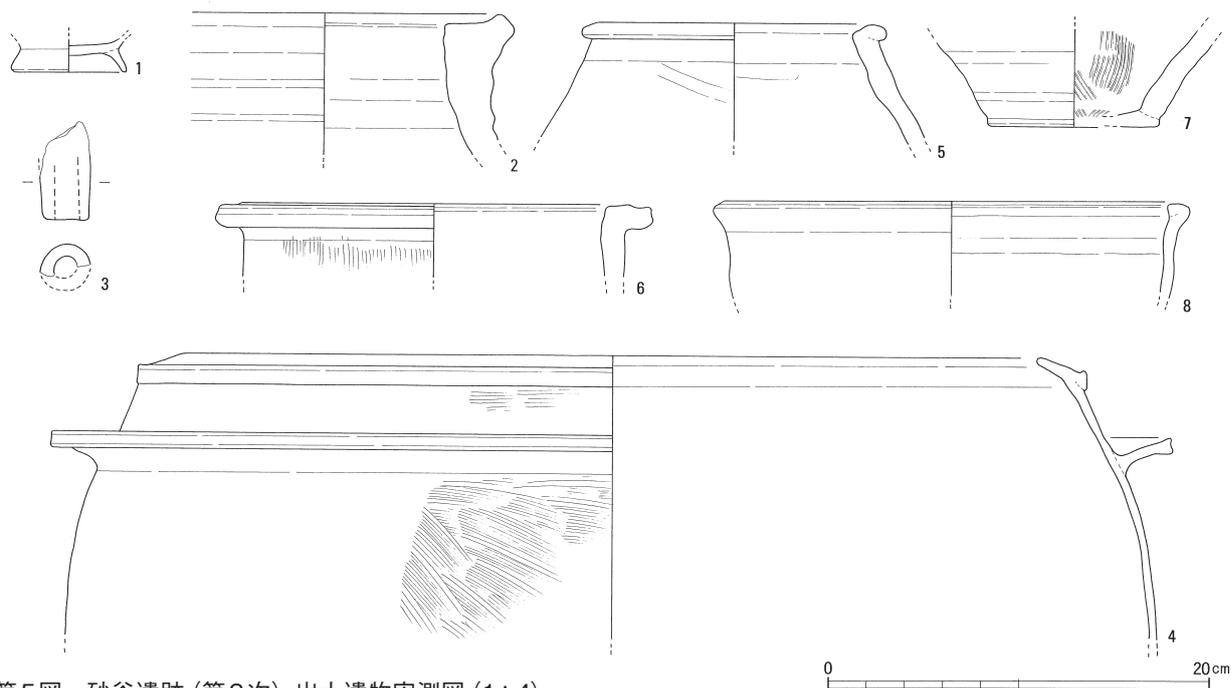
4. 出土遺物

B区の出土遺物（1・2） 1は土師器の台付碗で、平安時代後半頃（10～11世紀）のものである。2は常滑甕で16世紀末から17世紀のものである。

C区の出土遺物（3・4） C区では、丘陵部で土師器などの散布があり、砂谷遺跡の拡がり確認できた。3は土師質の土錘で、穴の径が比較的大きいものである。4は土師器羽釜で、口縁部は姥口形で煤は付着していない。南伊勢中世Ⅲ期（14～15世紀中頃）に相当する。

E区の出土遺物（5・6） 5は近世の土師質の壺で焼成が硬質である。6は土師器鍋で、口縁部が伊勢で地域ではあまり見られない形状である。時期は平安後期頃のものかと考えられる。

F区の出土遺物（7・8） 7は瀬戸美濃の播鉢で、大窯期（16世紀代）のものである。8は焙烙形の土師器鉢で近世のものであろう。



第5図 砂谷遺跡（第3次）出土遺物実測図（1：4）

V 広垣外遺跡

1. 調査の経緯と調査区の状況

広垣外遺跡は、度会郡玉城町坂本字広垣外に所在する。調査は、平成25年度高度水利機能確保基盤整備事業（有田地区）に伴い平成25年11月11日から13日にかけて立会調査を行った。事業地は谷水田部に面した所で、管を埋設するために総延長100mのトレンチを掘削した。最終調査面積は80㎡であった。

2. 調査の経過

広垣外遺跡の立会調査は、平成25年11月11日から開始し、同年同月13日に終了した。

調査日誌（抄）（調査区：第2図参照）

11月11日 a区調査

11月12日 b区調査

11月13日 c区調査

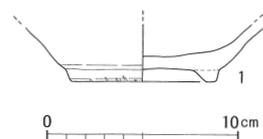
3. 基本層位

a区は、盛土の範囲内であった。b区、c区は、暗渠排水による攪乱が行われていた。c区の東端は、盛土。a区、b区の出土遺物はなかった。基本層序は、a～c区とも、舗装に伴うアスファルト・碎石の下に盛土（第3～6層）が堆積していた。遺構はなかったが、c区の盛土からは遺物が出土した。

4. 出土遺物

出土遺物は極めて少なかったが、c区では、土師器、鍋（16世紀）、山茶碗がいずれも盛土内に含まれていた。

c区の盛土からは、尾張型第5型式（13世紀）の山茶碗が出土している（第6図）。



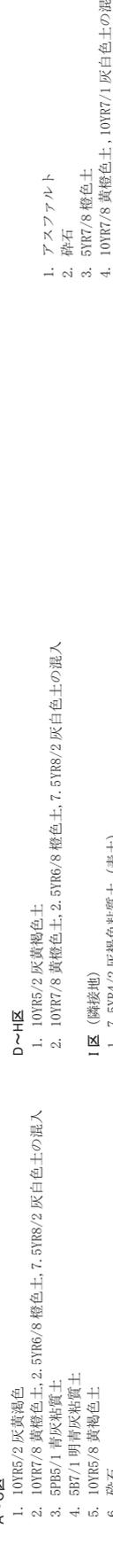
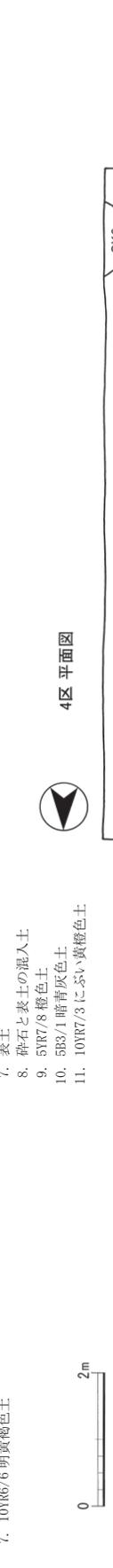
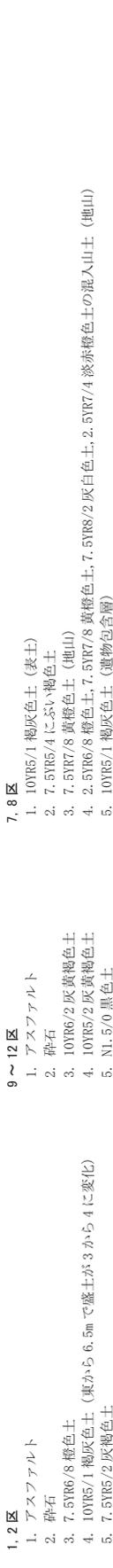
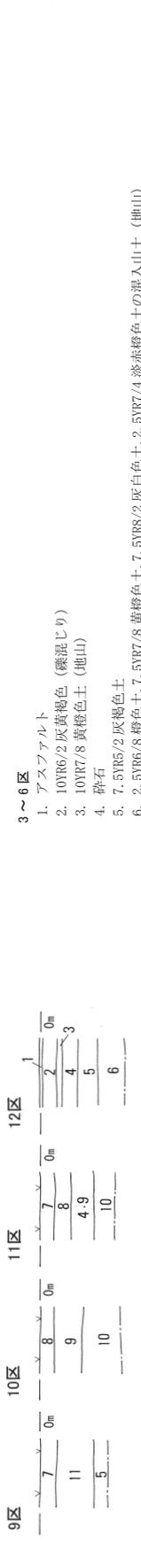
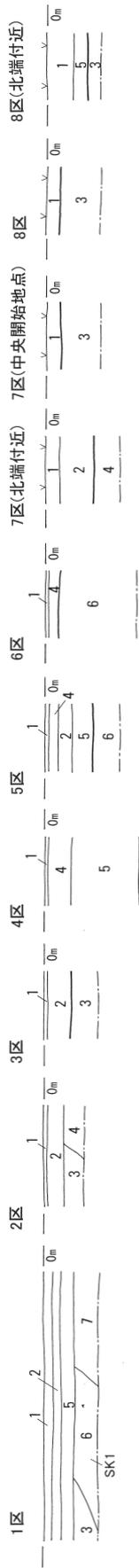
第6図 広垣外遺跡出土遺物実測図（1：4）

広垣外遺跡

NO	実測番号	種類	器種	地区	遺構・層位	法量 (cm)	残存度	器面調整	胎土	色調	備考	
1	1-1	陶器	山茶碗	c区	包含層	(高)7.5	高台部 6/12	-	(外)高台貼付ナデ・ロクロナデ (内)ロクロナデ	密	灰白	渾美 底部に糸切痕あり。 モミ鼓痕残。

第3表 広垣外遺跡出土遺物観察表

坂本里前遺跡(土層の長さは任意)



調査区土層断面・遺構平面図(1:100)

VI 湯田西浦遺跡

1. 調査経緯と調査区の状況

湯田西浦遺跡の調査は、平成 25 年度高度水利機能確保基盤整備事業（有田地区）に伴い、平成 25 年 6 月 26 日から 6 月 28 日にかけて範囲確認調査を行った。事業地内に箇所の調査坑を配置した。その結果、調査坑でピットないし土坑と考えられる遺構を確認し、調査坑からもピットが確認された。出土遺物は、平安時代後期から室町時代のものが見られた。このため平成 26 年 2 月 20 日から 2 月 27 日にかけて立会調査を行った。調査地は、湯田神社の北西で、調査坑 5 を含む道路部分に埋設水路を設置するために幅 70cm、総延長 102 m のトレンチを東西方向に掘削した。最終調査面積は 96m²であった。

2. 調査経過

湯田西浦遺跡の立会調査は、平成 26 年 2 月 20 日から開始し、同年同月 27 日に終了した。

調査日誌（抄）（調査区：第 8 図参照）

2 月 20 日

重機による表土掘削開始

（調査坑西側から 43 m 付近まで）

遺構検出（土坑 1、ピット 3）

遺構掘削（人力）。遺構清掃。写真撮影

遺構・土層実測

2 月 25 日

重機による表土掘削の続き

（43～56 m 地点）

調査坑西側 43～50 m 地点の包含層（第 3 層）から土器多数出土。

遺構検出（ピット 1）

遺構掘削（人力）。遺構清掃。写真撮影。

遺構・土層実測。

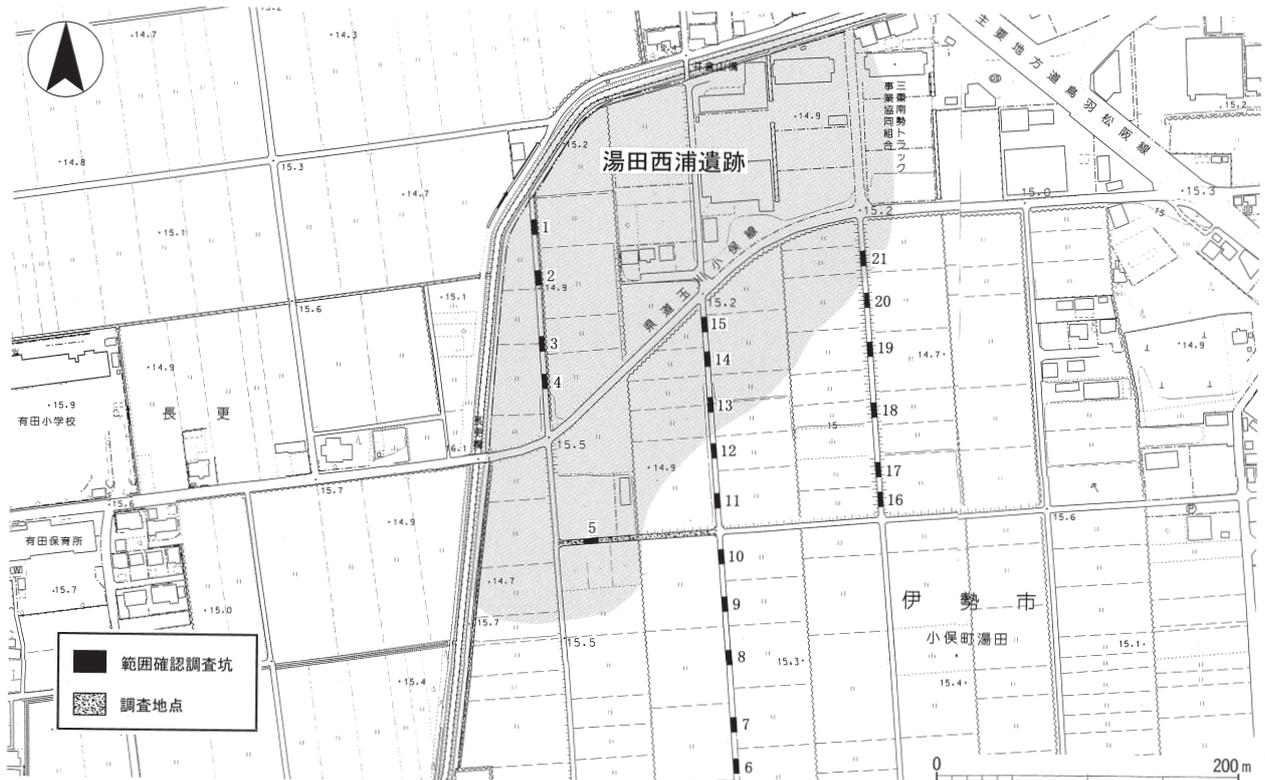
2 月 27 日

重機による表土掘削（最終地点まで）

遺構検出（土坑 1、ピット 4）

遺構掘削（人力）。遺構清掃。写真撮影。遺構

土層実測。作業終了



第 8 図 調査区地形図（1：5,000）

3. 層位と遺構

層位 基本層位（第11図）は、舗装に伴うアスファルト（第1層）・緑灰砂石の改良土（第2層）、黒褐色粘土質の盛土（第3層）が堆積する。第1層から60～80cm下で地山（第4層）に達した。地山は、西から黄褐色、中央部で黄橙色粘質土（砂礫を含む）、東では黄色粘土と変化が見られた。

遺構 検出した遺構は土坑2基とピット8基である。

SK1（第9図） 幅約1.7m、検出面から底面までの深さは約10cm。形状は半楕円形で埋土は黒褐色粘質土である。出土遺物は古墳時代の台付甕の底部である。土坑内では、幅45cm、深さ13cmの中ピット1個と幅15cm、深さ15～30cmの小ピット3個が確認された。

SK2（第9図） 幅約70cm、検出面から底面までの深さ35cm。形状は半円形で埋土は黒褐色粘土である。

4. 出土遺物

出土遺物は少ないが、大きく2時期に分けられる（第10図）。1は土師器壺の口縁部で、弥生時代後期から古墳時代前期のものと考えられる。

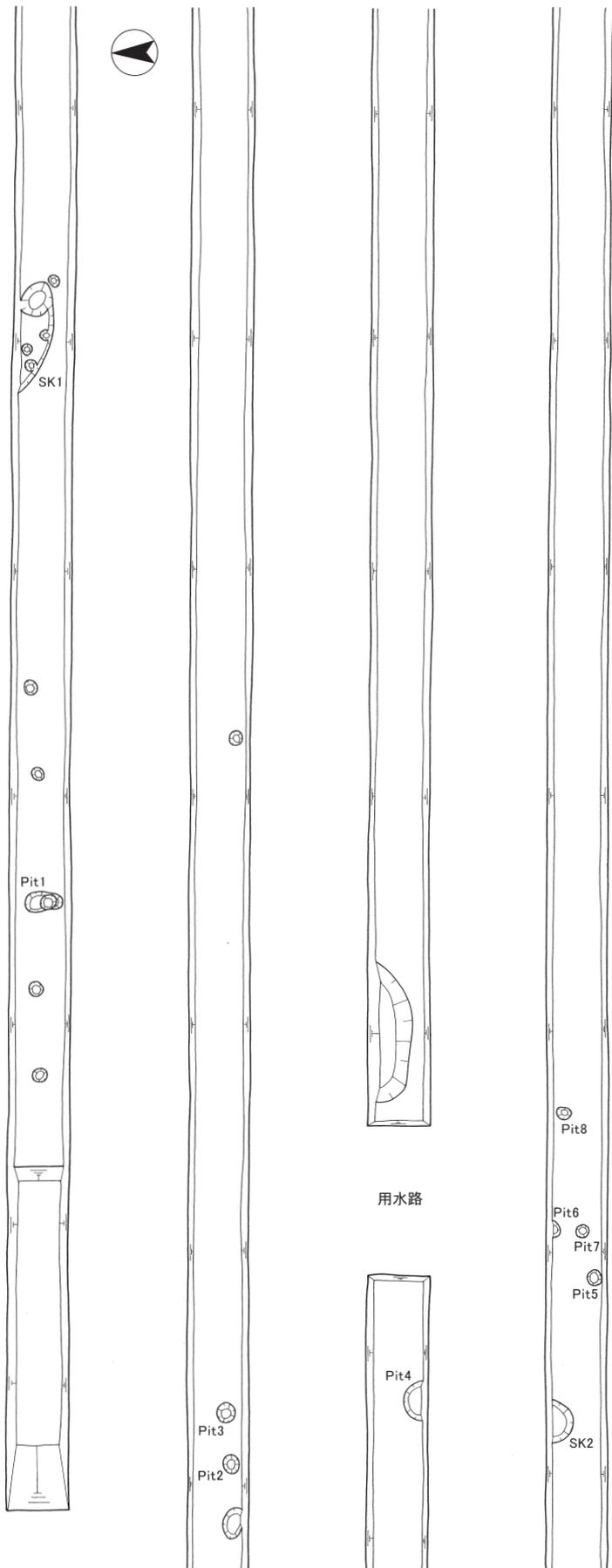
2・3はともに台付甕。2はS字状口縁台付甕で、古墳時代前期初頭頃のものと考えられる。3は2よりもやや新しい時期のものであろう。

4は高坏の脚部で、古墳時代のものと考えられる。

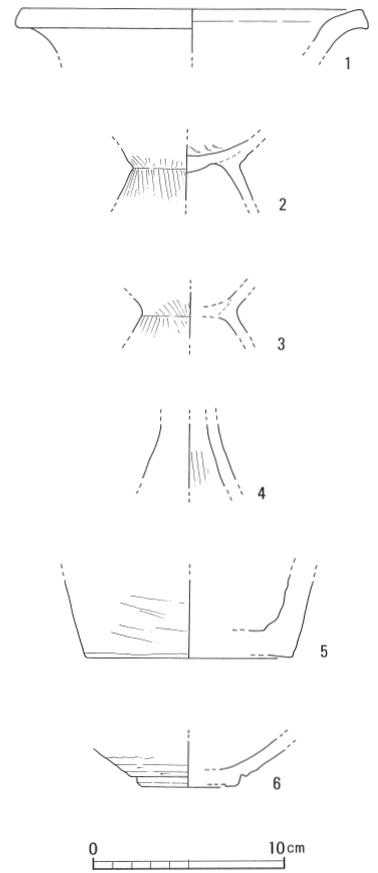
5は近世の常滑の壺である。6は瀬戸美濃産の天目茶碗で江戸時代のものである。

NO	実測番号	種類	器種	地区	遺構・層位	法量 (cm)	残存度		器面調整	胎土	色調	備考
1	1-3	土師器	壺	西から23～24m辺り	pit2	(口)17.8	口縁部 1/12	-	磨滅のため調整不明	密	にぶい黄橙	
2	1-2	土師器	台付甕	西部	SK1	(脚台)5.6	脚台部 12/12	-	(外)オサエナデ・ハケメ (内)ナデ(工具アタリあり)	密	にぶい橙	
3	1-4	土師器	台付甕	西から47～50m辺り	包含層 (第2層)	(脚台)5.0	脚台部 4/12		(外)オサエ・ハケメ	密	にぶい橙	
4	1-6	土師器	高坏	西から8m	pit1 (石入り)	径4.2	脚部 4/12		磨滅のため調整不明	密	灰白、にぶい橙	
5	1-1	陶器	壺	-	盛土	(底)10.8	底部 2/12	-	(外)ナデ・ロクロ使用工具ナデ (内)ロクロ使用ナデ	密	にぶい橙	常滑
6	1-5	陶器	椀	範囲確認調査坑21	褐灰色 粘土	(高台)5.0	高台部 3/12	-	(外)ロクロズリー→施釉 (内)ロクロナデ→施釉	密	素地→灰白 釉色→にぶい黄橙	天目茶碗

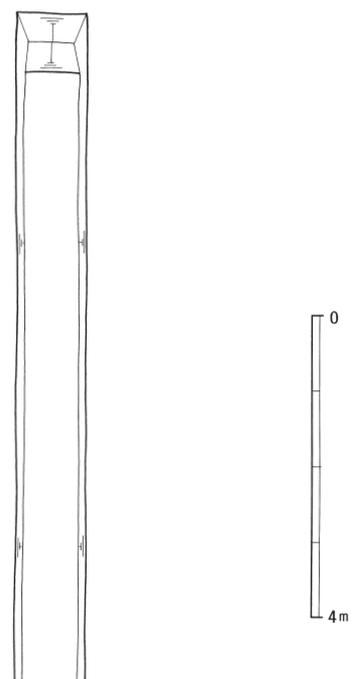
第4表 湯田西浦遺跡出土遺物観察表



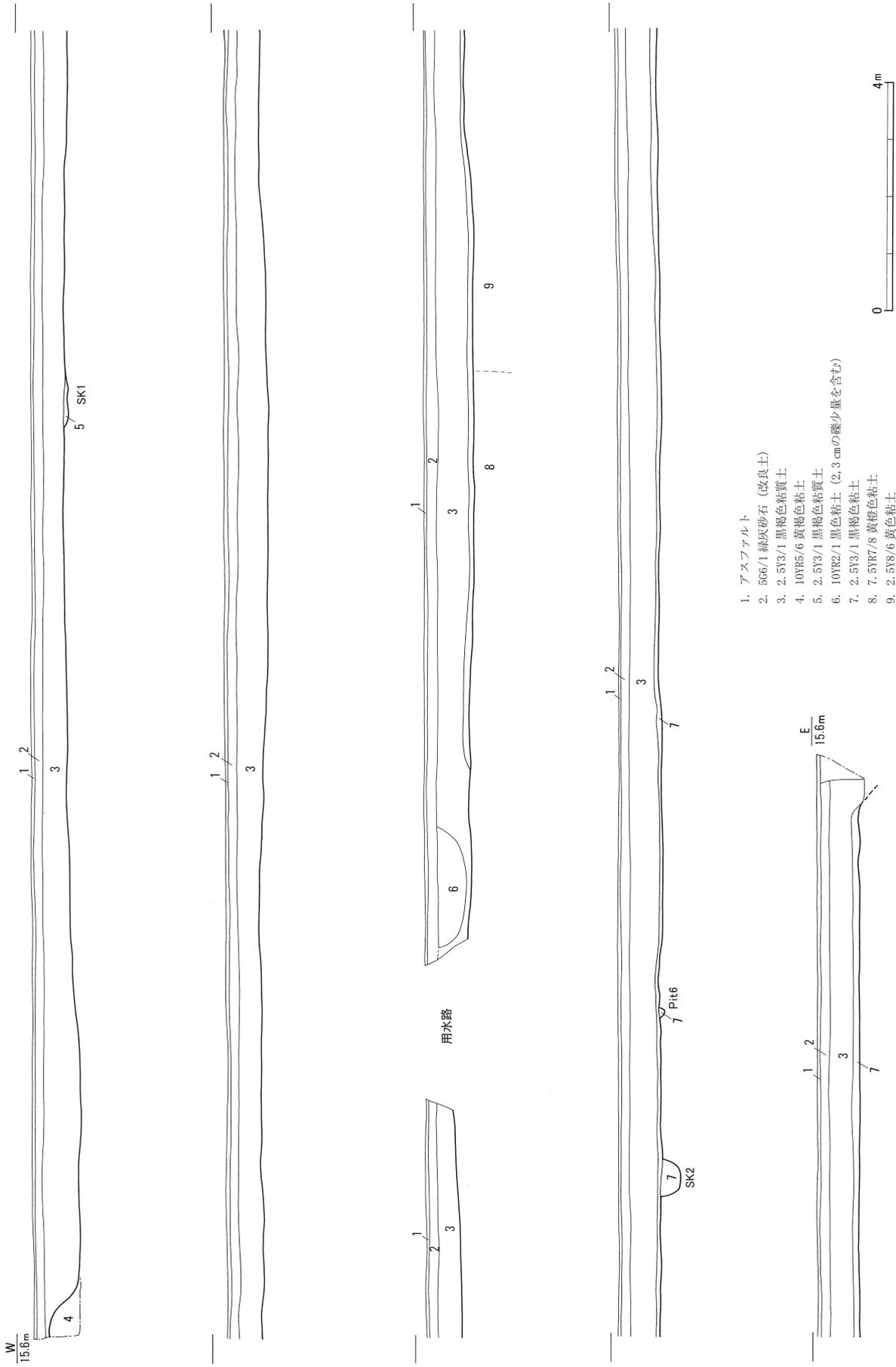
第9図 湯田西浦遺跡調査区平面図 (1:100)



第10図 湯田西浦遺跡出土遺物実測図 (1:4)



調査区北側断面



第111図 湯田西浦遺跡調査区土層断面図(1:100)

Ⅶ 結語

1. 有田地区について

今回は、有田地区の坂本周辺と湯田周辺の遺跡を調査した。各遺跡とも管を埋設する工事に伴う立会調査であった。検出した遺構はごくわずかではあったが、出土した遺物は良好な資料としての成果を得ることができた。

先にも述べたように、調査地域である有田地区は、明治22年以前まで旧有爾郷と旧湯田郷の村々に分かれていた。旧有爾郷は、古代より伊勢神宮の神事に使用する土器を造り続けてきたところであるといわれている^①。坂本近隣では、世古里中遺跡や西垣内遺跡で土器焼成坑が見つかっており、土器生産に直接関わる遺跡であることが判明している。今回の調査でも、土器生産遺跡が玉城丘陵東部に展開しているという想定を裏付ける結果になった。

坂本里前遺跡では、7区調査坑から6世紀から8世紀頃の土師器甕の土器片がまとまって出土した。また15～16世紀頃の「香炉型」の土器を初めて発見し、中世後期にみられるような多様な器種を製作していることの一部が見られた。総じて、坂本では奈良時代から中世にかけ継続して土器生産遺跡が展開していた可能性があるといえよう。

一方、旧湯田郷に位置する湯田西浦遺跡では、遺物は極めて少なかったものの古墳時代前期、中期の台付甕の脚台部や後期の高坏の脚部が出土した。この遺跡周辺には塚田古墳群を含む田丸道遺跡（玉城町妙法寺）があり、第2次発掘調査（平成22～23年）では古墳時代の遺構が数多く確認された。また遺物も大量に出土し、湯田西浦遺跡で出土した同時代の甕の脚台部や高坏の脚部などが流路や土坑から出土している^②。今回の調査では、湯田西浦遺跡が低地部にある古墳時代遺跡であり、しかも集落跡であることが確認できた。田丸道遺跡の成果も含め、古墳時代の遺跡が低地部微高地上に広く展開していることが確認されたことの意義は大きい。

2. 坂本里前遺跡

事業地は、谷水田部の面した所と丘陵部に相当する所がある。谷水田部の現道部分では、灰黄褐色土やにぶい黄橙色土、黒色粘土から8世紀から16世紀

頃の土器が出土した。明確な遺構はないが、丘陵部にある遺跡から相当量の土器が谷水田部に流れ込んでいる可能性がある。

丘陵部では、かなりの攪乱が見られたが一部で土坑が確認され16世紀頃の遺物が出土した。また、丘陵部の畑の部分でも埋土より6世から8世紀頃の土師器甕が出土している。周辺の畑にも多数の土器の散布がみられることから広い範囲に遺跡が広がっていることが想定される。

3. 砂谷遺跡（第3次）

事業地は谷水田部に面した所と丘陵部に相当する所がある。谷水田部の農道部分では、黄橙色土・橙色土・灰白色土の混入土から、10世紀から16世紀頃の土器が出土した。明確な遺構はないが、丘陵部にある遺跡から相当量の土器が谷水田部に流れ込んでいる可能性がある。

丘陵部の農道部分では、攪乱が見られたが16世紀頃の遺物が出土した。周辺の畑にも多くの土器の散布がみられることから広範囲に遺跡が広がっていることが想定される。

4. 広垣外遺跡

事業地は、谷水田部に面した所である。谷水田部の現道部分ではかなり攪乱を受けていたが、16世紀頃の土師器鍋・皿、渥美産の山茶碗（12～13世紀）が出土した。

5. 湯田西浦遺跡

今回の調査では、土坑2基と小穴を確認した。調査区東半分では、黒褐色粘質土の包含層を確認した。地山は、西から黄褐色粘質土、中央部で黄橙色粘質土、東では黄色粘土の変化がみられた。検出できた遺構面は標高14.5mであるが、後世の攪乱を受けており、本来の遺構面は50cmほど高いと思われる。出土遺物は土師器で、古墳時代の台付甕が含まれる。

〔註〕

① 玉城町編『玉城町史』（1995年）

② 三重県埋蔵文化財センター「田丸道遺跡（第2次）・塚田古墳群」
『平成21～23年度県営農業基盤整備事業地域（伊勢管内）埋蔵文化財調査報告』（2013年）

写真図版1

坂本里前遺跡(1)



2 区 土層(東から)



3 区 土層(東から)



4 区 土坑(SK2)(北から)



5 区 土層(西から)



7 区 中央開始地点 土層(東から)



11 区 土層(北から)



3

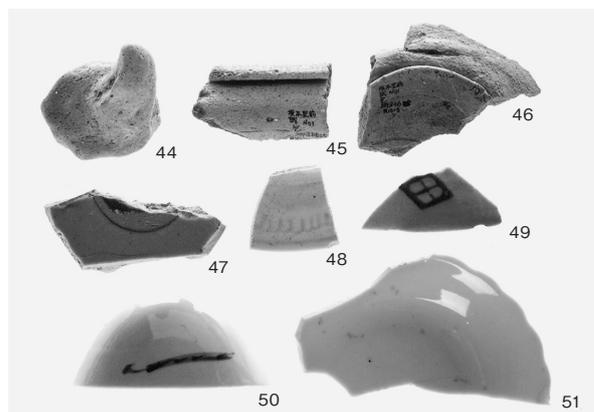
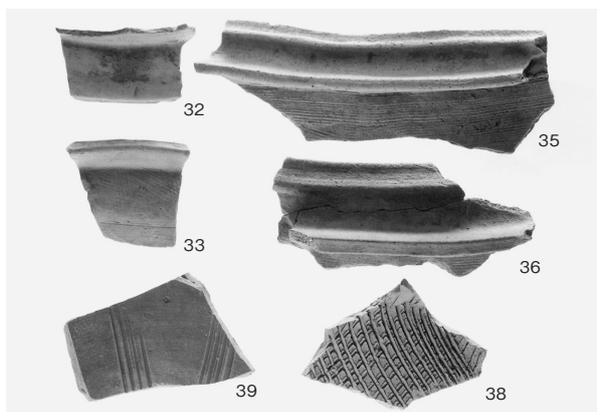
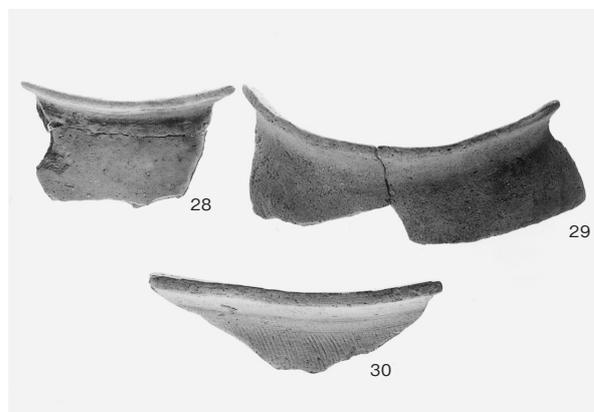
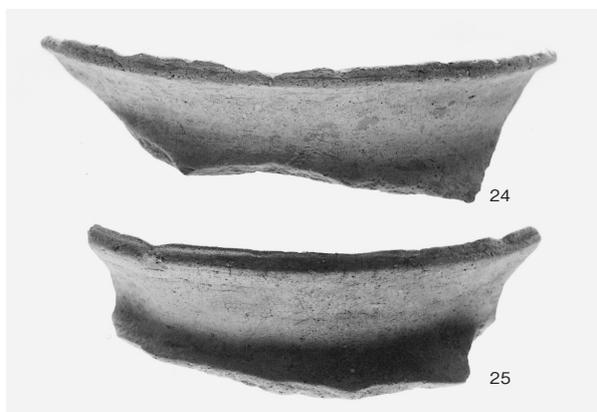
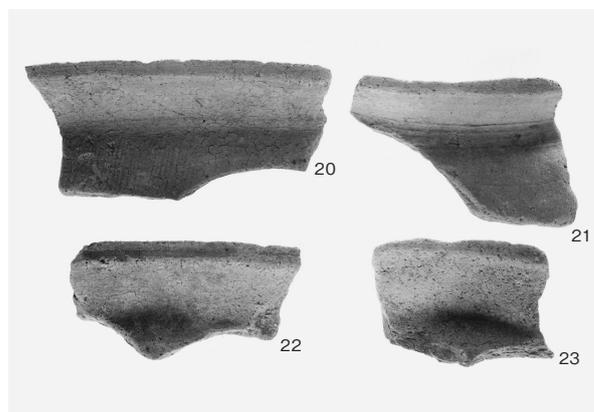
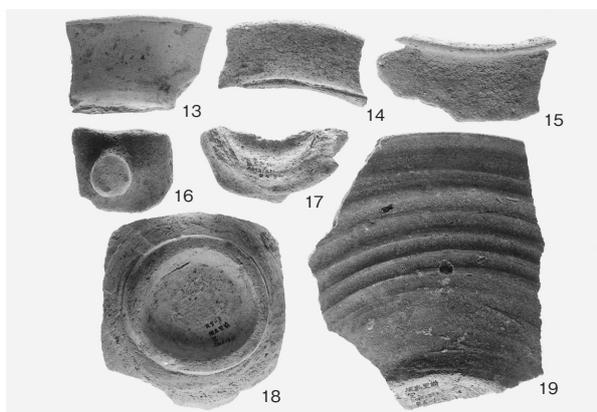
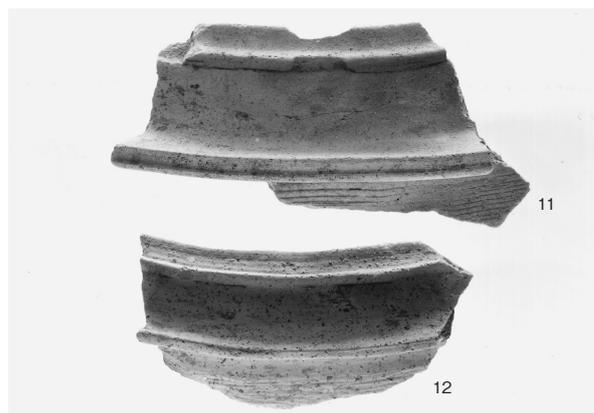
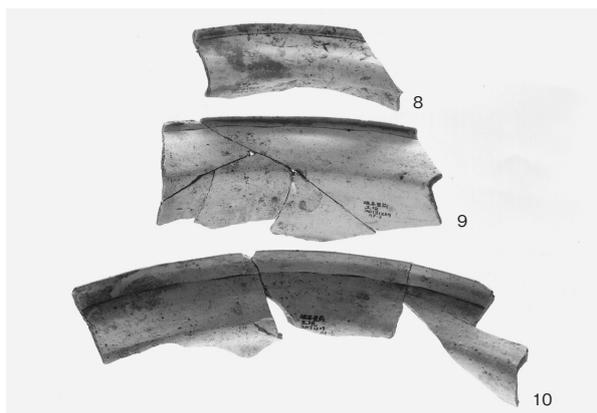


6



26

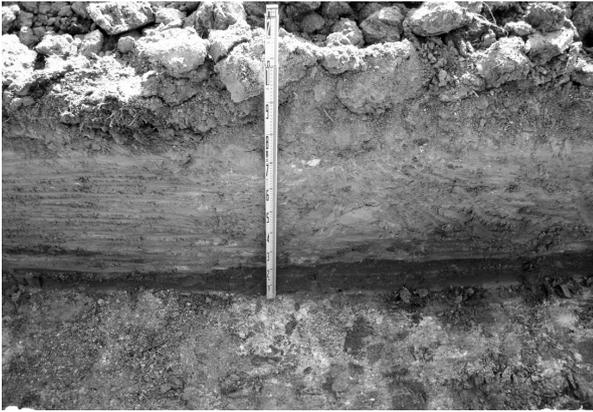
出土遺物



出土遺物

写真図版3

砂谷遺跡 (第3次)・広垣外遺跡 (1)



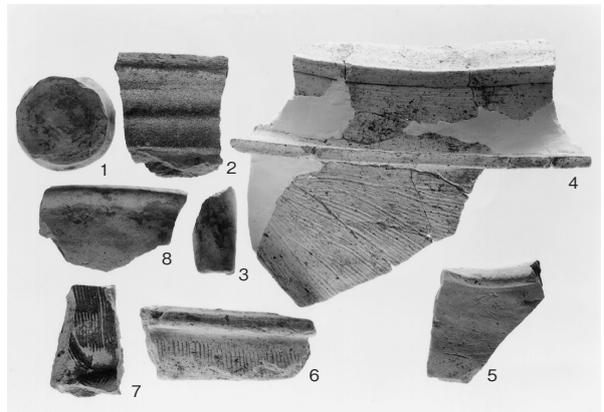
砂谷遺跡 A区 土層 (西から)



砂谷遺跡 F区 土層 (南から)



砂谷遺跡 I区 土層 (北から)



砂谷遺跡 出土遺物



広垣外遺跡 c区調査区近景 (西から)



広垣外遺跡 a区 土層(西から)



広垣外遺跡 b区 土層(北から)



広垣外遺跡 出土遺物



湯田西浦遺跡 調査区全景(西から)



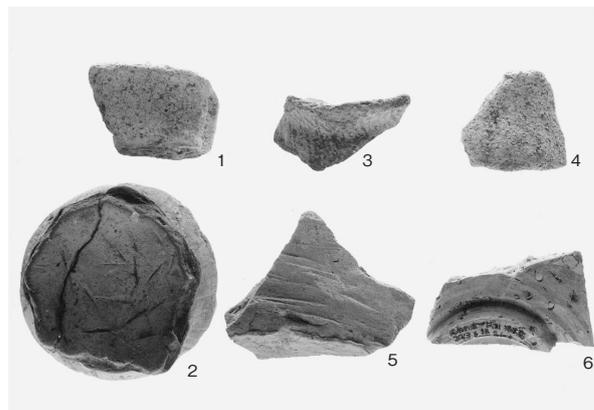
湯田西浦遺跡 調査区全景(東から)



湯田西浦遺跡 SK1(南から)



湯田西浦遺跡 SK2(南から)



湯田西浦遺跡 出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいせい25ねんどこうどすいりきのうかくほきばんせいびじぎょうちいき（うだちく）まいぞうぶんかざいはつくつちょうさほうこく							
書名	平成25年度高度水利機能確保基盤整備事業（有田地区）埋蔵文化財発掘調査報告							
副書名								
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	358							
編著者名	伊藤 亘							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 Tel. 0596-52-1732							
発行年月日	西暦2015年2月27日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さかもと さと まえいせき 坂本里前遺跡	わたらいぐんたまきちょう さかもと あざさと まえ 度会郡玉城町坂本字里前	461	224	34° 30′ 30″～ 36″	136° 37′ 24″～ 29″	20131209～ 20131217	280	平成25年度高度水利機能確保基盤整備事業地域（有田地区）
すなや いせき 砂谷遺跡	わたらいぐんたまきちょう さかもと あざすなや 度会郡玉城町坂本字砂谷	461	380	34° 30′ 36″～ 43″	136° 37′ 22″～ 27″	20140114～ 20140128	200	平成25年度高度水利機能確保基盤整備事業地域（有田地区）
ひろがいと いせき 広垣外遺跡	わたらいぐんたまきちょう さかもと あざひろがいと 度会郡玉城町坂本字広垣外	404	404	34° 30′ 28″～ 29″	136° 37′ 31″～ 34″	20131111～ 20131113	80	平成25年度高度水利機能確保基盤整備事業地域（有田地区）
ゆた にしうら いせき 湯田西浦遺跡	いせ しおばたちょうゆた 伊勢市小俣町湯田	203	C2	34° 30′ 20″～ 21″	136° 38′ 35″～ 39″	20140220～ 20140227	96	平成25年度高度水利機能確保基盤整備事業地域（有田地区）
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
坂本里前遺跡	散布地	古代から中世	土坑		土師器（6～8世紀）・陶器・磁器			
砂谷遺跡	散布地	古代から中世			土師器・陶器			
広垣外遺跡	散布地	中世			山茶碗			
湯田西浦遺跡	散布地	弥生から中世	土坑		土師器（古墳時代）・陶器			
要 約	坂本里前遺跡では、現道部の調査坑で土坑が確認できた。なかでも、6世紀から8世紀の土師器甕の一部が調査坑の特定の範囲から集中して出土した。また、中世南伊勢系土師器も多数出土した。砂谷遺跡では、明確な遺構はなかったが、現道部の調査坑で平安時代後期の土師器をはじめ、16世紀頃までの土器が出土した。広垣外遺跡は、現道部分が過去の工事によりかなり攪乱されていたが、16世紀頃の土師器鍋が出土した。湯田西浦遺跡では、ピットと土坑と考えられる遺構を確認できた。また、古墳時代前期から後期の台付甕が出土した。							

三重県埋蔵文化財調査報告 358

平成25年度 高度水利機能確保基盤整備事業地域 （有田地区）埋蔵文化財発掘調査報告

2015(平成27)年2月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター
印刷 (有)ミフジ印刷